

マーガレット

科 名 … キク科

園芸分類 … 常緑多年草

春の訪れを感じさせてくれる「マーガレット」。マーガレットの歴史は古く、17 世紀にヨーロッパに渡り、主にフランスで品種改良されてきました。日本には明治末に導入され、フランス菊・木春菊などの名前で親しまれてきました。近年さらに品種改良が進み、赤、ピンク、黄色、八重咲き、アネモネ咲きなど変化に富んだ花色や花形のものが出てきています。

【置き場所】

日当たりを好みます。ほんのちょっとした日照条件によって花の色が変わります。

よく日光に当たる場所では濃い色に、梅雨時や曇りが多いと淡い色になります。

また咲き進み具合によっても花色が変化します。高温多湿に弱く、夏が近づくにつれ生育が衰えてきます。真夏は直射日光が当たらない風通しの良いところで管理しましょう。

耐寒温度は 5℃なので冬は軒下や室内で管理すると安心です。

氷点下になる地域では移動しやすい鉢植えの方がお勧めです。

【水やり・肥料】

生育期は土の表面が乾いてからポットカバーから出して、たっぷりと水を与えます。

やや乾燥気の土壌を好むので水のやりすぎに注意して、真夏の蒸れに気を付けましょう。

開花中は花に水がかからないように水やりします。

肥料は夏と冬をのぞいて液体肥料を 2 週間に 1 度与えるようにします。

肥料は少なめでも良く育ちますが、チッソの多い肥料だと葉ばかり茂って花付きが悪くなります。

【植え替え】

鉢植えの場合は根詰まりをおこしやすいので、毎年一回り大きな鉢に植え替えます。

庭植えにする場合は南向きの日だまりなど寒風が当たらない場所に植えます。

あらかじめ苦土石灰を混ぜ込み、酸性の土を中和させておきます。腐葉土や赤玉土を混ぜ込んで植えます。寒冷地では鉢植えが無難です。

植え替え適期は遅霜の心配がなくなる 4 月～6 月か 9 月～10 月です。

【発生しやすい病虫害】

若い葉にアブラムシが発生します。特に室内で越冬させた場合は大発生していることがありますので駆除します。他にはハダニ・センチュウなどがあげられます。

病気は茎葉に斑点ができて、その後枯れてしまう立ち枯れ病があげられます。

高温多湿の梅雨時期から夏にかけて発生しやすくなりますので風通しの良い場所で管理しましょう。

【花後の手入れ】

咲き終わった花はその都度摘み取ります。

9 月頃に草丈の半分ぐらい切り戻します。そうすることで翌年に新しい枝葉が出やすくなります。

晩秋になってからの切り戻しは翌年の開花に影響しますので、9 月中には終わらせるようにします。